

## 第1回豊明市総合教育会議 会議録

日時：令和2年12月18日（金）午前10時00分～

場所：豊明市役所 新館3階 教育委員会室

### 構成員

市長 : 小浮 正典  
教育委員会 教育長 : 伏屋 一幸  
同 教育長職務代理者 : 長山 加代子  
同 委員 : 久留島 夕紀  
同 委員 : 青木 睦  
同 委員 : 井戸 貴子

### 事務局

行政経営部長 : 藤井 和久  
秘書広報課長 : 馬場 千春  
同課担当係長 : 福井 久美子

### 関係部局

教育部長 : 小串 真美  
学校支援室長 : 小崎 真  
学校教育課長 : 高木 安司

(欠席者なし)

### 1 開会宣言

### 2 あいさつ

市長 新型コロナウイルスの影響があり、3月から5月にかけて全校休校という史上初の事態が起きた。しかし、インフルエンザでの学級閉鎖は1件も起きず、先生方は授業を取り戻そうと努力されており、カリキュラムは無事修了できると考えている。

また、令和3年度に開校する二村台小学校で全学年35人学級を実施していく予定であったが、急転直下、全国でも2年生から順次実施する状況となった。愛知県の施策と併せながら、他の学校でも順番に進

めていき、少しでも子どもたちが教育を受けやすい環境を整えていきたい。

その一環として放課後児童クラブについてはできるだけ学校内や学校から近い場所を実施していく方針である。しかし栄小学校だけは学校外の離れた場所にあるため、栄小学校内の図書館栄分室を閉鎖し放課後児童クラブに使う計画にしていたところ、市民 1,500 人もの反対があった。学校は学校に通う子どもたちにとっての環境を整えていくことが大切であるとする。反対に、図書機能が必要であることも十分理解しているので、南部公民館の図書館機能の充実を図りたい。

教育長 今年度の学校見学は 10、11月に、新型コロナウイルス感染症対策を実施し、短時間少人数で行った。校長先生から明確な回答やお話を聞いた。学校現場で見たことをこの場で伝えてほしい。

文部科学省が示した全校 35 人学級の実施にあたっては、教室数の調査を実施済みである。豊明市では基本的には充足しているが、栄小学校については 18 クラスから 22 クラスに増えるため教室数が必要となる。図書館栄分室の閉鎖については教室数増加の面からも結果的に良い判断であったと思う。

事務局 本日は傍聴希望がないため、引き続き進行。

※会議の進行が事務局から市長へ移行

### 3 議題

#### (1) 教育委員会学校訪問に係る報告について

委員

二村台小学校では外国籍児童が増加すると想像されるが日本語職員を増やす予定があるのか。

多文化共生施策懇話会で外国籍児童を指導する先生や通訳が困っているとの声を聞いた。生活的な支援の多くの部分の支援が通訳にゆだねられており、通訳の仕事の域を超えて、頼るのはどうなのかと思う。保護者もすべてとは考えていないが、頼る所がない。先生たちも対応に困っていると聞く。

市内で 1 人でも 2 人でもいいが、専門的に対応を考える人を雇ったほうがいい。相談専門の人を登用する考えはあるか。

教育長

日本語支援の職員について、通訳は減らさず現状維持の予定として

いる。養護教諭も市費で雇用する予定。さらに、統合に際し事務負担増分と先生の補助のため、現在双峰小学校にいるスクールサポートスタッフを引き続き二村台小学校でも2人置く予定。ベトナム人も増えており、ベトナム語通訳は現在唐竹小学校にあり、二村台小学校へ移ってもらう予定である。

また、プラスエデュケートの職員に9月から職員室で仕事をしてもらっている。

通訳に生活の支援や相談にも乗ってもらっている。実態として、通訳が長年勤務になり保護者との信頼関係ができ、保護者が頼ってしまう部分がある。指摘の通りだと思うので、今後考えていきたい。

## 委員

建物の老朽化は昨年に引き続き気になる、計画的な改修をお願いしたい。特に雨漏りについては、火災のリスクもあるので改修をお願いしたい。

日本語教育支援、特別支援、スクールサポートスタッフ、ICT支援員など支援員ばかりになると地域の方々の支援という形になってくると思うが、現状地域の方は学校にお任せという意識を強く感じる。一方、学校側も地域の人たちには清掃等の部分でしか頼っていない。教頭先生の負担を軽くするようなコーディネーター的な人の育成を今後考えていかないといけない。

例えば不登校の児童生徒などへオンラインでもサポートすることが可能になれば、子育てや介護で家を空けられないが技術のある方を活用することができるのでは。その場合は対象児童生徒への情報管理の配慮が必要。また、保護者のデジタルに対する知識が上がれば保護者がサポートすることもできる。そういった事の対応として市民全体や市のサービスのデジタル化を考えていく必要があると考える。

市長と話そう会で自然を残すようにしてほしいとの意見があった。

## 市長

特に雨漏りについては早期に対応する必要があると認識しているので、老朽化と併せて計画的に改修を進めていく。

コーディネーターについては将来を見越すと必要になっていく。館小学校で実施しているセーフティプラス1を今後進めていく上で、地域の人たちが担っていけるといいと思うが、カリキュラムを十分に策定しないと子どもたちにとって無駄な時間になってしまう。地域で子どもを

見守っていく状態にするためにも、コーディネートできるレベルの人が必要になっていく。多世代交流館では、様々な機能を集めることによって、様々なことを、やりたいと思う人がやれる場が与えられて育っていく、市民が自分たちの手で課題を解決していくことができるようになるのが理想である。多世代交流館の中に、コーディネーターの集団である市民交流センターも作るので、そういった環境を生かしながら学校と地域をつなぐ人材を育成していきたい。

市のデジタル化については必要である。特に日本語教育については、オンライン化することによって現在支援できていない人にも支援が行き届けばと思う。

自然環境保全については、勅使水辺公園や三崎水辺公園などで水鳥のために歩道に木がかかるようにわざと残している。公園を自然の豊かさを残していく方向で今後業者にも管理を委託していく。

## 教育長

コミュニティスクールについては、現在三崎小学校が実施しており、おやじの会やPTA活動が盛んな学校から取り組んでいき、広めていこうとしているところ。豊明小学校、中央小学校も令和3年度から実施予定。愛知教育大学学生の学習支援や読み聞かせなどといった内容だが、学校に地域の人が入っていくといったことを積み重ねて、足掛かりにしてコミュニティスクール化できないかと考えている。

もう一つ、部活動の指導をスポーツ推進員や地域のスポーツが得意な人たちが担うという地域協働本部という方法を市・町によっては実施しているところもある。

また包括協定を締結している星城高校もコーチなど部活動の指導を積極的に申し出てくれている。現在は個別で実施しているセーフティプラス1や地域協働本部、星城高校、そのあたりを上手につなげると学校の負担も減りつつ、地域の中の学校という感じになっていく。つなげる役目をコーディネーターに担ってもらう。そういった方向性で進めていきたいと思う。

GIGAスクールの活用については、端末やWi-Fiルーターなどの機材を整えていく。

## 委員

学校訪問の施設面で気づいた点で、斜めについているコンセントや、頑丈すぎると思える扉、扉が2つあるトイレなど、先生もなぜなのか答

えられない施設があった。限られた予算なので、もう少し説明ができるなど、誰がどこで責任を持って決定したのか明確になると良い。

中学校トイレの改修要望の声が生徒からもある。少しずつでも工事を進めてほしい。

教員の負担について、先生たちはたくさんの仕事を抱えている。部活の短縮や定時退校日などの取組はあるようだが、業務として見直すことができるものがあったとしても、提案しづらいようである。各学校と校内、施設、それぞれ情報共有、連携がとれているのだろうかと感じる。人を増やすこともだが、業務の見直しに取り組んでほしい。

特別支援について、豊明小学校には支援員で介護士が入っている。教員の支援員を見つけるのは大変。保育士など様々な職種で探せないか。

障がいのある子が通学する学校を決める際に、先生だけでなく専門職と一緒に話ができると保護者としては受け入れやすい。

地域には知恵がある人が多い。コミュニティスクールで地域の人材を生かしていければと思う。

## 市長

施設については、過去は現場で話し合いをしていなかったと思う。今後は現場をよく見てやっていく。

トイレについて、令和4年度に終了予定の計画であったが、先に空調工事を優先したため、トイレ改修工事が遅れたのは事実。新型コロナウイルス感染症関連で税収がそれほど落ち込まなければ、今の予定より少しでも前倒しできるようにしたい。

就学時の相談については社会福祉協議会などにも、資格を持った職員がいるので活用していくことも考えられる。

地域の中には自分の能力を生かしたい人もいると思う。コーディネーター能力のある人を各学校1名程度育成していきたい。

## 教育長

業務量については、合唱コンクールや家庭訪問の廃止など多忙化解消に取り組み100時間を超えている教員は減った。しかし、市教員個人が感じているものについては、教育委員会として統一的にやれることは少ない。よく校内で話し合ってもらい必要がある。先生も他の意見をいかに吸収できるのかという課題になってくると思う。どの程度の思いがあるのかというのもある。しかし、多忙化解消は必要。埼玉県戸田市は民間コンサルタントに入ってもらいなどの取組をしている。豊明市でも2年前に外部講師を呼んで実施してみたが、ほとんど

校長会で考えたものと大きく変わらなかった。業務を減らして不足している人を充てる方向である。

知的障害や境界の児童生徒が増えており、多忙化の一因になっている。ヒアリングを行い、必要な支援員を充てている。

#### 指導室長

各校で行事の見直し等を行う運営委員会があり、例えば運動会などの行事や野外学習など学年主任が入って改善打合せを行っている。意見が言えないということはないかと思う。

#### 委員

校則について、生徒会と先生が話し合っている学校もあると聞く。学校ごとに柔軟に考えられる土壌があるとよい。学校生活のすべてにおいて自分たちでできることは自分たちで考えるよう持っていかたいと思う。

昨年の総合教育会議で、多世代交流館に不登校の子が入るスペースの設置を願った。しかし不登校の子の保護者の会に参加したら義務教育を受けられるようにしてほしいという意見があった。当事者の意見は考えていたものと違ったのでより意見を聞き、もっと考えていかないとけないと考えさせられた。北部と南部を選べるのはありがたいことだと思った。

#### 市長

市長と話そう会で、生徒たちは要望の形での発言が多かった。まずは自分たちでできる事から取り組もうと話をした。

不登校に対しては、子どもごとに理由が違うことを考えると選択肢を増やす必要があると考える。15歳までは社会が支える義務があると思うので、どこかで社会との関わりを持てるようにし、その子の生きる道その子なりに見出せるようにしていく。試行錯誤しながら取り組んでいきたい。

制服については費用がかかるためすぐには対応できないが、校則については委員と同様の考えである。

#### 教育長

校則については議会などでも質問が出ている。80年代に校則をギョッとしめた時があった。その後、見直しを主体的、積極的にやってなかったのだと思う。生徒手帳から校則を分けて変えやすくしているので、話し合いをできる土壌を作っていくべきだと思う。生徒に主体的になってほ

しいと思う。生徒会と先生で話し合っ決めていけば主体性が育っていくと思う。子どもたちの意見を聞きながら変えていこうとしている先生にも伝えていきたい。

教育長

エアコンを特別教室に入れる、実施計画に入れていく。

(2) その他

※二村台小学校の改修について、改修前後や新しく導入した設備等について高木課長より説明

市長 必要以上の設備は気になる。学校教室への空調でルームエアコンの導入は全国で豊明市が初であった。文科省も方針を転換している。既存のこうであるという思い込みを捨てて子どもに必要な環境を合理的に判断していきたい。

事務局 意見や質問も出尽くしたようですので、以上で総合教育会議を終了します。